

外国人看護師候補者の教育と研修の課題：フィリピン人候補者を対象とした国家試験模擬試験調査を通して

川口, 貞親

産業医科大学産業保健学部：教授

平野, 裕子

九州大学大学院医学研究院保健学部門：准教授

小川, 玲子

九州大学アジア総合政策センター：准教授

大野, 俊

九州大学アジア総合政策センター：センター長, 教授

<https://doi.org/10.15017/17932>

出版情報：九州大学アジア総合政策センター紀要. 5, pp.141-146, 2010-06-30. 九州大学アジア総合政策センター

バージョン：

権利関係：

外国人看護師候補者の教育と研修の課題

— フィリピン人候補者を対象とした国家試験模擬試験調査を通して —

Issues in the Education and Training of Foreign Nurse Candidates:
A Mock National Examination of Filipino Candidates

川口 貞親

(産業医科大学産業保健学部教授)

平野 裕子

(九州大学大学院医学研究院保健学部門准教授)

小川 玲子

(九州大学アジア総合政策センター准教授)

大野 俊

(九州大学アジア総合政策センター長・教授)

KAWAGUCHI, Yoshichika

(Professor, School of Health Sciences, University of Occupational and Environmental Health)

HIRANO, O. Yuko

(Associate Professor, Faculty of Medical Sciences, Kyushu University)

OGAWA, Reiko

(Associate Professor, Kyushu University Asia Center)

OHNO, Shun

(Director and Professor, Kyushu University Asia Center)

Abstract

In order to explore the circumstances and study issues related to education and training of foreign nurse candidates arriving in Japan under Economic Partnership Agreements (EPA) concluded between Japan and Southeast Asian countries to undergo training or employment at medical institutions throughout Japan, we conducted a survey based on a mock examination of the national examination for nurses by targeting Filipino nurse candidates. The subjects comprised 59 Filipino nurse candidates of the first group to arrive in Japan who agreed to cooperate for the survey. For the survey, we used problems from the English version of the 98th National Examination for Nurses. Based on cooperation between the Association for Overseas Technical Scholarship (AOTS) and Kyushu University, the survey was conducted at 4 locations throughout Japan in December 2009 using the same time allocations as those used in national examinations in Japan.

According to the results, the mean rate of correct answers for mandatory problems was 79%. Categorized by area, the mean rate of correct answers was 61-73% for nursing-related problems and 55-57% for basic knowledge regarding bodily functions and disorders. The examination results differed greatly between those who had seen examination problems before and those who had not, and although 12 of the subjects who had seen the problems before (57.1%) met the standard of acceptance, only 9 of the subjects who had not seen the problems before (23.7%) met the standard of acceptance. These survey results indicate that factors of difficulties faced by Filipino nurse candidates in passing national examinations include not only the difficult of Japanese courses but also differences in nursing education curricula and basic nursing policies between Japan and the Philippines. This survey revealed that in order to enable foreign nurse candidates to develop learning methods to pass national examinations, it is important to consider these kinds of perspectives.

Key words : Economic Partnership Agreement, Foreign nurse candidates, Mock examination using English version of national examination for nurses

要 旨

日本と東南アジア諸国間の経済連携協定(EPA)の取り決めに従って来日し、全国の医療機関で研修・就労中の外国人看護師候補者の教育と研修の状況を探り、課題を検討するため、フィリピン人看護師候補者を対象とした看護師国家試験の模擬試験調査を実施した。対象は来日第1陣のフィリピン人看護師候補者の中で、調査協力の得られた59名である。調査に用いたのは、第98回看護国家試験問題の英語版である。調査は、財団法人・海外技術者研修協会と九州大学が協力して2009年12月に全国4カ所で行われ、日本の国家試験と同じ時間配分で行った。

その結果、必修問題の平均正答率は79%であった。領域別平均正答率をみると、看護系では61~73%であったのに対して、身体機能や疾患の基礎知識などについては55~57%であった。今までに試験問題を見たことがある者とならない者では試験結果が大きく異なり、見たことがある者の12名(57.1%)が合格基準に達していたのに対して、見たことがない者で合格基準に達していたのは9名(23.7%)であった。これらの調査結果から、フィリピン人看護師候補者にとって国家試験合格の壁になっている要因としては、日本語履修の難しさだけでなく、日本・フィリピン間の看護教育カリキュラムや看護の基本方針の相違もあることが示唆された。候補者の国家試験合格に向けた学習方法の開発にあたっては、こうした観点も重要であることがわかった。

キーワード：経済連携協定、外国人看護師候補者、看護師国家試験英語版を用いた模擬試験調査

1. はじめに

日本・東南アジア諸国間のEPAの発効に伴って、2008年度よりインドネシアから、2009年度よりフィリピンから看護師と介護福祉士の候補者が来日し、全国の医療機関や介護施設に配属されて教育・研修が行われている。教育・研修は各受入機関の裁量に委ねられ、国家試験合格に向けての学習も受入機関と候補者本人の努力に任されている印象が強い。フィリピンもインドネシアも看護師候補者は、日本滞在中に計3回、看護師国家試験の受験チャンスがあるが、最終的に何人が合格できるか、マスメディアをはじめ社会的に大きな注目を集めている。

看護師・介護福祉士候補者に対する国家試験は、日本人同様に日本語で行われるため、言葉の壁がクローズアップされている。関係者やマスメディアの間では、日本人と同等の試験問題ではなく、設問にルビをふったり、辞書の持ち込みを認めるなど、外国人向けの特別の試験を課すべきとの意見がある。しかし、国家試験を実施する厚生労働省は2010年5月現在、「外国人候補者を特別扱いしない」との方針を堅持している。

本研究では、日本の各医療機関で教育・研修中の看護師候補者の教育と研修の状況を探り、課題を検討するため、来日第1陣のフィリピン人看護師候補者を対象として、英語版による模擬試験調査を実施した。英語版を用いたのは、

フィリピンの主要教育言語である英語による模擬試験で高得点が得られるようであれば、克服すべき課題は主に言葉の問題と解釈できるであろうし、逆に高得点が得られないようであれば、単なる言葉だけの問題ではなく、問題に正解できない別の要因が存在することになる。その判断および解釈を行うことに、本研究の意図がある。

2. 対象および方法

対象は、EPAプロジェクトのフィリピン人看護師候補者の第1陣として来日した93名である。この第1陣は2009年5月10日に来日し、海外技術者研修協会(以下「AOTS」と表記)などで日本語研修を受けたあと、10月29日に各医療機関に配属になっている。93名のうち、本調査に協力して模擬試験を受験したのは59名である。これは、第1陣フィリピン人看護師候補者全体の63.4%にあたる。

調査は、AOTSと九州大学が協力して、2009年12月26日に実施した。全国の4会場(東京都足立区、大阪市、名古屋市、福岡市)で同日同時刻に実施し、日本の国家試験と同じく、午前、午後ともにそれぞれ2時間40分の時間配分で行った。調査に用いたのは、第98回看護国家試験問題(2009年2月22日に実施分)の英語版で、九州大学が翻訳、英語の堪能な医療従事者により校閲済みのものを用いた。受験した59名は、日

本語研修の後、各医療機関に配属になって約2カ月の時点で模擬試験を受験したことになる。

第98回看護国家試験問題の内容を表1に示した。問題数は、午前、午後それぞれ120問ずつで計240問、回答形式はマークシート方式である。基本的には四肢択一であるが、一部には五肢択一、五肢択二の問題が含まれる。出題内容は 必修問題、人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、社会保障制度と生活者の健康、基礎看護学、在宅看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学である。必修問題とは全ての領域の中の基礎的問題として位置づけられている。

表1.日本における看護師国家試験の内容

問題数: 240問(午前120問、午後120問)
回答形式: マークシート(基本的には四肢択一)
出題内容:

- | | |
|----------------|-----------|
| ①必修問題 | ②人体の構造と機能 |
| ③疾病の成り立ちと回復の促進 | |
| ④社会保障制度と生活者の健康 | |
| ⑤基礎看護学 | ⑥在宅看護学 |
| ⑦成人看護学 | ⑧老年看護学 |
| ⑨小児看護学 | ⑩母性看護学 |
| ⑪精神看護学 | |

Table 1. The Contents of the National Board Examination for Registered Nurses in Japan

The Number of Questions:
240 (120 in the morning and 120 in the afternoon)

Answer Format: Mark-sensing (generally, mark one among 4 answers)

The Contents of Questions:

1. Basic	2. Human Anatomy and Physiology
3. Human Pathology	
4. Social Welfare System and Public Health	
5. Fundamental Nursing	6. Home Care Nursing
7. Adult Nursing	8. Gerontological Nursing
9. Child Health Nursing	10. Maternity Care Nursing
11. Mental Health Care Nursing	

第98回看護師国家試験の合格基準を表2に示した。必修問題は30問で構成され、1問1点である。合格には30点中、24点以上の正解が必要で、23点以下の場合には不合格となる。必修問題が24点以上であれば、一般問題/状況設定問題において270点中、174点以上獲得できれば合格となる。一般問題は1問1点、状況設定問題は1問2点で計算する。

3. 結果

受験の結果、領域別の正答率は、高い順に、

表2.第98回看護師国家試験の合格基準

必修問題 …30点中、24点以上の正解が必要
23点以下の場合、不合格

一般問題
状況設定問題 …270点中、174点以上が必要

必修問題で24点以上、かつ一般問題/状況設定問題で174点以上で合格

Table 2. Acceptance Standards for the 98th National Examination for Nurses

Mandatory problems Minimum score of 24/30 points
A score of 23 points or less is a fail

General problems
Situational problems Minimum score of 174 /270 points

A score of 24 points or more for mandatory problems and a score of 174 points or more for general problems and situational problems are required to achieve a passing grade

「必修問題」79%、「在宅看護論」73%、「小児看護学」67%、「精神看護学」66%、「成人看護学」65%、「老年看護学」63%、「母性看護学」61%、「基礎看護学」60%、「社会保障と生活者の健康」57%、「疾病の成り立ちと回復の促進」56%、「人体の構造と機能」55%であった。

表3に、フィリピン人看護師候補者59名の領域別得点分布を示した。今までに第98回看護師国家試験の問題(日本語、英語を問わず)を「見たことがある」(have ever seen)と回答した者21名と、「見たことがない」(have never seen)と回答した者38名とでは試験結果が大きく異なっており、「見たことがある」と回答した者が、すべての領域において得点が高かった。「見たことがある」と回答した者の中には、全体を通して9割を超える正答率の者も7名いた。

表4に、フィリピン人看護師候補者59名の合格基準に照らし合わせた成績を示した。今までに試験問題を「見たことがある」との回答者21名のうち、合格基準に達していたのは12名(57.1%)であった。一方、試験問題を「見たことがない」との回答者38名のうち、合格基準に達していたのは9名(23.7%)のみで、29名(76.3%)は合格基準に達していなかった。

個別の問題について分析してみると、正答率

表3.フィリピン人候補者の領域別得点の分布

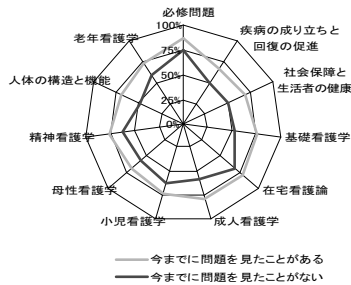


Table 3. The Distribution of Scores by Area Achieved by 59 Filipino Nurse Candidates

(Exam venues: Tokyo, Nagoya, Osaka and Fukuoka on 22 Feb. 2010)

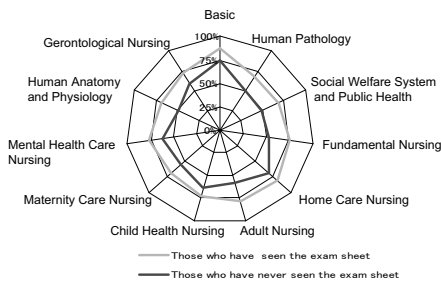


表4.フィリピン人看護師候補者59名の成績

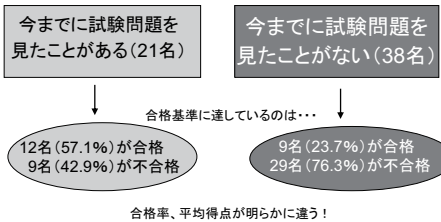
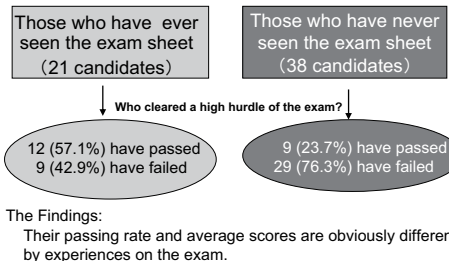


Table 4. The Scores of 59 Filipino Nurse Candidates Who Took the Exam in English



の高い問題と低い問題に特徴がみられた。正答率が最も低かった問題を、表5に示した。これは、午後の48問目にあたる、がん患者の看護についての問題で、正答率は12%であった。四択一の問題であるので、正答率12%という数字は、間違った選択肢を正しいと思い込んでいる候補者が大半であることを示している。

表5. (正答率12%)・・・一般問題

癌性疼痛で硫酸モルヒネ徐放錠を1日2回(9時、21時)内服している患者が19時に痛みを訴えた。このときの対応で最も適切なのはどれか。

1. 睡眠導入薬の内服
2. 塩酸モルヒネ水の内服
3. ペンタゾシンの筋肉注射
4. 21時の硫酸モルヒネ徐放錠を早めに内服

Table 5. Correct Answer Rate, 12% - General Problem

A patient taking morphine sulfate sustained-release tablets for cancer pain twice a day (9:00, 21:00) complains of pain at 19:00.

Which of the following is most appropriate in this situation?

1. Administer hypnotics
2. Administer morphine hydrochloride in water
3. Intramuscular injection of pentazocine
4. Administer morphine sulfate sustained-release tablets before 21:00

正答率27%であった問題を、表6と表7に示した。表6は、午前の26問目にあたる成人看護の急性期の問題で、表7は、午前の111問目にあたる厚生労働省の母子保健計画に関する問題である。

表6. (正答率27%)・・・一般問題

消化管の異常とその原因の組み合わせで正しいのはどれか。

1. 麻痺性イレウス - 腸捻転症
2. 絞扼性イレウス - 胆石発作
3. 弛緩性便秘 - 糖尿病自律神経障害
4. 痙攣性便秘 - 硫酸モルヒネの内服

Table 6. Correct Answer Rate, 27% - General Problem

Which of the following is a correct combination of a digestive tract problem and its cause?

1. Paralytic ileus-----twist in the intestines
2. Strangulating ileus-----gallstone attack
3. Atonic constipation-----diabetic autonomic disorder
4. Convulsive constipation-----morphine sulfate intake

表7. (正答率27%)・・・一般問題

「健やか親子21」の主要課題でないのはどれか。

1. 思春期の保健対策強化
2. 子育てと仕事の両立支援
3. 子どもの心の安らかな発達への促進
4. 妊娠・出産に関する安全性と快適性の確保
5. 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備

Table 7. Correct Answer Rate, 27% - General Problem

Which of the following is not a major issue listed in "Healthy Parents and Children 21"?

1. Enhancing health measures during adolescence
2. Supporting combined child-rearing and working
3. Facilitating the peaceful development of children's minds
4. Ensuring safety and comfort regarding pregnancy and delivery
5. Developing environments to maintain/improve the medical level of a child's health

逆に正答率の高かった問題を表8と表9に示した。唯一、正答率100%であったのは、午後の2問目にあたる国民健康保険に関する問題(必修問題)であった(表8参照)。次いで正答率が高かったのは、午前の10問目にあたるニトログリセリンに関する問題(必修問題、表9参照)で、正答率98%だった。

表8. (正答率100%)・・・必修問題

国民健康保険一般被保険者本人の自己負担割合はどれか。

1. 1割 2. 2割 3. 3割 4. 4割

Table 8. Correct Answer Rate, 100%-Mandatory problem

How much is the self-pay ratio for general insured persons with national health insurance?

1. 10% 2. 20% 3. 30% 4. 40%

表9. (正答率98%)・・・必修問題

ニトログリセリンの作用はどれか。

1. 昇圧 2. 造血 3. 血管拡張 4. 免疫抑制

Table 9. Correct Answer Rate, 100%-Mandatory problem

Which of the following is an action of nitroglycerine?

1. Pressurization 2. Hematogenesis
3. Vascular dilation 4. Immune suppression

4. 考察

模擬試験を受験したフィリピン人看護師候補者59名の成績は、必修問題では8割近い平均正答率であった。このことから、候補者の大半が基本的な知識はおさえていると考えられた。必修問題の中には、日本の出生率、国民健康保険、保健師助産師看護師法に関する問題も含まれていたが、他問題と比べても、それほど正答率は低くなく、日本の看護に関する基礎的な点についての学習が進んでいるものと思われる。

一般問題や状況設定問題での領域別平均正答率をみると、看護系領域では61~73%であったのに対して、身体機能や疾患の基礎知識などについては55~57%であった。看護師国家試験では領域ごとの難易度が同一ではなく、また国家試験の結果が厚生労働省から公表されていないために安易に一般化はできないが、今回受験の

候補者に限っていえば、臨床場面での看護アセスメントや看護援助の実際についてはある程度、点数が取れているのに対して、身体の特徴や疾患の基礎知識、社会福祉制度ではあまり点数が取れていない、と判断できた。

日本人看護師の場合にもいえることであるが、配属先の部署(病棟)の勤務に必要な専門的知識は保たれるが、あまり必要でない知識は使われず、失われがちである。フィリピン人看護師候補者の場合も、臨床の場から離れて時間が経ち、また日本語教育や日本の生活に適應するのに重点が置かれているため、模擬試験を受験した時点では看護や医学に関する知識の集約が十分できていないと考えられた。このため、今後の国家試験対策としては、これまでに習得しているはずの知識を想起できるような学習が必要である。

今までに試験問題を見たことがある者とないう者では試験結果が大きく異なり、見たことがある者の12名(57.1%)が合格基準に達していたのに対して、見たことがない者で合格基準に達していたのは9名(23.7%)であった。見たことがある者の中には、240問すべてに正解で、300点満点の者が1名いた。満点に近い成績の者も7名いた。これは、模擬試験対策として英語版の看護国家試験の問題を解いて学習した経験があるためとみられ、看護師候補者の教育と研修の現実的な状況を反映しているとは考えにくく、国家試験対策の学習方法を検討する材料になるとは限らない。

正答率の最も低かった問題は、がん患者の看護の問題で、正答率は12%であった。この問題はがん看護に関する専門的な問題で、日本人の学生にとっても難しいと思われる問題である。正解は、「2. 塩酸モルヒネ水の内服」であるが、「4. 21時の硫酸モルヒネ徐放錠を早めに内服」と間違えて回答した候補者が多かった。これは、日本とフィリピンにおける看護方針の違い、看護教育カリキュラムの違いを反映した結果とも考えられる。今後は日比両国の詳細な相違点を把握し、検討する必要があるだろう。

正答率27%であった午前111問目の問題は、厚生労働省の母子保健に関する計画の問題である。候補者にとっては、国家試験対策のための学習を行わないことには理解できない問題であ

り、医療機関配属後まもない時点で高い正答率を求めるのは難しい。唯一、正答率が100%だったのは、午後の2問目（必修問題）の国民健康保険に関する問題であった。一般被保険者本人の自己負担割合を問う問題である。候補者は来日後、日本の健康保険に加入している。加入の際には担当者から必要な説明を受け、自分自身の問題としても必要な知識ではあるとは思われる。他の比較的容易な看護の問題でも正答率100%にならなただけに、この問題だけが正答率100%というのは興味深い。次いで高い正答率であったのは、午前の10問目（必修問題）のニトログリセリンに関する問題で、正答率98%であった。看護師にとっては基本的な必要知識だが、全員が正解できたわけではなかった。

英語版の国家試験を用いた本調査結果から、国家試験合格の壁になっているのは、単に言葉だけの問題ではなく、フィリピンと日本では看

護教育カリキュラムや看護の基本方針に違いがあり、それが影響しているものと考えられた。こうした点も考慮し、国家試験合格に向けた学習方法の調整が必要であることが示唆された。

なお、筆者たちは日本の看護師国家試験をインドネシア語にも翻訳し、来日のインドネシア看護師候補者を対象とした模擬試験調査を、受験者数は限定的ながら実施済みである。この調査結果については、目下、分析中である。

本研究は、科学研究費補助金基盤研究B「経済連携協定に基づく外国人看護師の国際労働力移動と受け入れシステム構築に関する研究」（2009～2012年度）（研究代表：平野裕子、課題番号21390166）の成果の一部である。

参考文献

厚生労働省、2009年、『第98回看護国家試験問題』（2009年2月22日に実施分）、厚生労働省。